

「子どもの事故防止研修プログラム」を受講した京都教育大学教育学部の学生の感想（抜粋）：2023年11月25日

・「子どもの発達と事故防止について」の講義と「子どもの視野体験と施設見学」を通して、子どもたちにとって日常は危険でいっぱい、どこにでも事故が起こりうる原因が潜んでいて、それが起こるのはほんの一瞬の出来事であるということが分かりました。そして、子どもの事故を完全に防ぐことは不可能で、少しでも減らせるように、またもし起こってしまった場合にはできる限り軽症事故で済むように環境を整えることが重要であるということ学びました。

・ちょっとした環境の整備が事故予防につながることを学び、知ってさえいれば取り組める予防方法がたくさんあることに気付きました。今後は何らかの形で貴施設の存在と家庭内事故に関する事例や対策を多くの人に伝えたいと思いました。

・将来、教員として子どもを預かる時はもちろん、個人としても子どもと暮らす機会ができた時などにとっても勉強になる内容ばかりだった。子どもの事故の実情と事故予防対策の必要性を知ることは、私達教員を目指す者だけでなく、すべての人にとって重要だと感じた。

・子どもは子ども扱いされることを嫌がり、やたらと大人の真似をしたがるし、大人のことをよく観察していると感じます。私達も大学生とはいえ大人なので、普段から子どもたちに見られているんだという意識を待って行動しなければならないと思いました。

・子どもの事故を減らす対策を立てるためには、まず事故の実態を知ることが大事だと感じました。セーフティハウスで実際の家具を使った予防方法の展示や誤飲してしまった物を実際に見ると、想像していたよりも危険性を実感することができました。今自分達が当たり前のように利用し、放置しているものが子ども達にとってどれだけ危険かを学ぶことで、少しの注意や心配りができるようになれば、子どもは家庭で安心して暮らせると思います。子どもの事故のことは将来親となる中学生、高校生にも学んでほしいし、「京あんしんこども館」のような施設があること、子育てに関する相談先があることを多くの人に伝えていくことが大事だと感じました。